



3位に入賞した団体戦メンバー

卓球部 全国高等学校総合体育大会 団体・ダブルス2年連続第3位！ 小野泰和（2・5北陵）創部初の個人第5位！

第92回全国高等学校卓球選手権大会

時 8月9～13日
於 北ガスアリーナ札幌46

（男子団体）

2回戦

本校 3-1 新潟産大附属高校（新潟）

3回戦

本校 3-2 白子高校（三重）

準々決勝

本校 3-1 明德義塾高校（高知）

準決勝

本校 1-3 愛工大名電高校（愛知）

（男子ダブルス）

3位 佐藤卓斗（34北陵）・小野泰和

（男子シングルス）

5位 小野泰和

ベスト32 佐藤卓斗

1回戦敗退 肖 麒麟（1・3雅）

○大会総評

団体戦、ダブルス、シングルス共に初戦から厳しい試合の連続であったが、選手達は持ち前の粘り強さを発揮して、全ての種目で入賞することができた。団体戦準決勝は昨年と同じく愛工大名電との対戦であったが、生徒達は強豪

雲 北陵月報

No. 456

令和5年8月31日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷



女子ソフトテニス部

令和5年度全日本高等学校

ソフトテニス選手権大会

時 7月27～29日
於 苫小牧市緑ヶ丘公園庭球場

1回戦

木村香夏（2・3斐東）

岡本涼香（2・5浜東）

2回戦

水永花音（2・5益東）

大庭萌愛（2・3益東）

3-4 山形県ペア

○大会総評

あと一歩のところまで勝利を上げることができなかった。今後、より大きな舞台での活躍を目標に、精進していきたい。応援有難うございました。（顧問 金森 快）



ダブルス3位入賞の
佐藤卓斗（右）・小野泰和

校にも臆することなく挑み、あと一歩まで追い込むことができた。目標とする日本一には届かなかったが、着実に前進していることを実感することができた。今回の成績に満足することなく、今後は更に上を目指して精進していきたい。遠路応援に駆けつけてくださった保護者の皆様方には心より御礼申し上げます。有難うございました。（顧問 古瀬泰之）

なぎなた部

第62回全国高等学校なぎなた選手権

時 8月5～7日

於 千歳市開基記念総合武道館

（演技競技の部）

橋垣苺佳（3・3雅）・寺本春葉（2・4松）

予選リーグ敗退

原 綾音（1・2雅）・郷原奈那（1・1雅）

予選リーグ敗退

（個人試合の部）

橋垣苺佳 決勝T2回戦敗退

寺本春葉 決勝T1回戦敗退

（団体試合の部）

1勝1敗 予選リーグ敗退

○大会総評

演技は予選リーグ敗退。団体では浜松商業には勝ったものの、団体優勝した首里高校に敗れ予選リーグ敗退。個人では橋垣がベスト16と善戦した。入賞は逃したものの今後へ繋がる良い大会であった。今大会の経験を生かし、今後も稽古に励みたいと思う。応援有難うございました。（顧問 井上美代）

中学卓球部

第54回全国中学校卓球大会

時 8月24日

於 高知県立県民体育館

（男子シングルス）

2回戦敗退 三好蒼空（3・3雅）

○大会総評

上位進出には至らなかった。全国の舞台で戦った経験を今後の活動に生かしてほしい。（顧問 相場翔太）

特別国民体育大会 中国ブロック予選大会

卓球部

鹿児島国体出場権獲得

時 8月19・20日
於 俵田翁記念体育館（山口）

（少年男子）

島根 3-0 広島 島根 0-3 山口
島根 3-0 岡山 島根 3-0 鳥取

結果 2位

【出場選手】

佐藤卓斗、小野泰和、黒田昌秀（25歳）

○大会総評

島根の選抜チームとして本校の単独チームで臨んだ。インターハイ直後でコンディションは決して良くなかったが、各選手が気力を振り絞り、中国ブロック予選を突破することができた。本国体では昨年の成績を上回れるように頑張りたい。（顧問 古瀬泰之）

男子バスケットボール部

時 8月19・20日
於 ソルトアリーナ防府

島根県国体少年男子

（顧問 崎原匠海（12歳））

鹿児島国体出場権獲得

（少年男子の部）予選リーグ

8月19日 島根 89-72 広島

8月19日 島根 82-64 山口

8月20日 島根 80-65 鳥取

8月20日 島根 78-86 岡山

結果 2位

○大会総評

本校からは崎原が出場した。島根選抜チームは、初日に広島、山口と対戦し共に快勝した。2日目は勢いに乗ったまま鳥取に競り勝ち、3連勝で本大会出場を

決めた。最終試合の岡山戦は惜敗したもののチームの団結力が光る好ゲームであった。本国体での活躍を期待したい。（顧問 手島幹人）

なぎなた部

時 7月16日
於 山口県立下関武道館

1勝3敗

【出場選手】

寺本春葉（24歳）、郷原奈那（11歳）、原 綾音（12歳）

○大会総評

今年度はブロック通過することができなかった。本国体へは演技のみの出場となる。今回の結果を反省し次へ繋げたい。（顧問 井上美代）

女子ソフトテニス部

時 8月19・20日
於 キリンビバレッジ周南庭球場

本校からは3名（水永花音・大庭萌愛・岡本涼香）が島根県代表として出場した。島根は団体としての勝利を上げることができなかった。出場した3名は2年生であり、経験として今後の取り組みに繋げて欲しい。（顧問 金森 快）

（顧問 金森 快）

陸上競技部

国民体育大会島根県予選
時 7月15・16日
於 松江

（男子）

少年A 棒高跳 2位 片岡賢晴（22歳）

少年A 共通走高跳 4位 足立康佑（24歳）

少年A 300m 6位 東原 舜（35歳）

少年A 走幅跳 7位 梅野聖悟（21歳）

（女子）

少年A 300m 6位 矢野有紗（22歳）

○大会総評

前半シーズンの締めくくりの大会で5

名が入賞した。秋の新人戦に向け弾みがついたので、目標とする記録を出せるよう頑張りたい。（顧問 別所美喜子）

野球部

第105回全国高等学校野球選手権島根大会

時 7月16日
於 県立浜山公園野球場

2回戦 本校 0-9 出雲西

今年度は、4年ぶりの賑やかな高校野球が幕を開けた。本校は当番校として尽力しながら試合へ向けた調整をし、大会に臨んだ。

迎えた本校初戦の相手は、同じ私学の出雲西であった。序盤から流れを掴めず、結果はコールド負けとなってしまった。

県内外から関係者の皆様に見守られながらの試合は、選手達を後押ししてくれた。残念な結果に終わったが、3年生4名の懸命な姿に胸を打たれた。ご声援有難うございました。（顧問 畑 宗一郎）

テニス部

島根県テニス新人大会出雲地区予選

時 8月19・20日
於 浜山公園

（女子シングルス）優勝 長子七海（21歳）

（男子シングルス）3回戦敗退

（男子ダブルス）1回戦敗退

○大会総評

新チームは男女合わせて3人となった。練習試合は行なわず、猛暑の中練習を積み重ねて臨んだ大会であった。長子は、持ち前の粘り強さで頂点に立つことができた。称賛に値する。男子は1年生のみで試合経験を積みできなかった。1ヵ月後の県大会では勝ち上がれるよう、今後も頑張りたい。保護者の皆様には、暑い中応援していただき有難うございました。（顧問 石川剛巨）

卓球部

第19回出雲市オープン卓球選手権大会（一般の部）

時 7月16日
於 カミアリーナ

（団体）優勝 出雲北陵中高A

（シングルス）

優勝 小野泰和（25歳）

2位 佐藤卓斗（34歳）

3位 肖 駿駿（13歳）、波多間怜偉（中2歳）

○大会総評

結果に満足することなく、努力を継続していききたい。（顧問 古瀬泰之）

吹奏楽部

第64回全日本吹奏楽コンクール中国大会 高等学校Aの部金賞全国大会出場

時 8月21日
於 倉敷市民会館 大ホール

○大会総評

昨年度は全国大会出場を逃しており、今年は何としても全国大会に出場する強い決意を持って、生徒達は連日、朝早くから夜遅くまで練習に励んだ。

人数も少ない中、練習では苦勞の連続であったが、3年



生を中心に努力を重ねて本番に臨んだ。

年々中国地区のレベルは高くなっており、どの団体が全国大会へ推薦されてもおかしくないほどの好演奏が続いた。その中で本校は高い評価を得て金賞を受賞し、2年ぶり15度目となる全国大会の出場権を得ることができた。

全国大会では島根県、中国地区の代表として更に良い演奏・活動ができるよう、精進していきたい。また、これまで献身的にサポートしていただいた保護者の皆様をはじめ、卒業生や関係者の方々に対し、部員一同心より感謝致します。

第64回全日本吹奏楽コンクール島根県大会 金賞 中国大会出場

時 7月30日
於 島根県民会館大ホール

【高等学校Aの部】
課題曲…「煌めきの朝」／牧野圭吾
自由曲…復興／保科 洋

○大会総評
大会では落ち着いた雰囲気、北陵らしい音色で表現力溢れる演奏をし、観客を魅了した。結果は金賞を受賞し、中国大会への出場権を得ることができた。加えてAの部で2年連続となる最優秀賞も受賞することができた。これも偏に保護者会をはじめ、応援していただいている方々のお蔭と部員一同感謝している。
(顧問 原田 実)

合唱部

NHK全国学校音楽コンクール島根県コンクール 金賞 中国ブロックコンクール出場

時 8月10日
於 大田市民会館



メンバーの半数が1年生ということもあり、緊張の面持ちで臨んだ今年度初めてのコンクールであった。当日は、コロナ禍が明けた初めてのコンクールであり、マスクなしで歌うことができ、あらためて

「歌うこと」「合唱すること」の喜びを噛みしめながらの本番であった。結果、金賞を受賞し、中国ブロックコンクールへコマを進めることができた。更に、細部にわたる表現やバランス、音色などテクニカルを高めていきたい。

第62回島根県合唱コンクール 金賞 中国大会出場

時 8月20日

於 浜田石央文化ホール

NHKコンクールとは課題曲、自由曲共に違う曲を演奏した。本番ステージでは、緊張から練習の成果を十分に発揮することができず、やや残念な演奏になった。しかしながら、結果は金賞を受賞し中国合唱コンクールへコマを進めることができた。審査員の先生からも多くの改善点が示され、中国合唱コンクールに向けて、基本を大切にしながらより完成度の高い演奏ができるように日々の練習に取り組みたいと思う。
(顧問 布野浩志)

美術部

愛鳥週間ポスターコンクール 特選 勝田愛弓 (27歳)



勝田さんの作品

入選 陶山和夏 (27歳)
佳作 嘉儀夏実 (27歳)
奨励賞 鳥谷賢世 (27歳)、高橋 悠 (27歳)

第47回全国高等学校総合文化祭 美術・工芸部門

時 7月29日
於 鹿児島市立美術館

本校から山崎梨央 (36歳) が参加した。各都道府県代表の美術・工芸作品が展示され、全国レベルの作品を鑑賞した。交流会では鹿児島県の工芸品を制作したり、全国の高校生と作品を鑑賞した。
(顧問 飯塚康弘)



会場にて

写真部

写真甲子園2023本戦大会 激戦を戦い抜き、敢闘賞！

時 7月24日
於 北海道十勝郡東川町

本校から山岡翔子 (31歳)、飯塚真子 (34歳)、田口誠子 (34歳) の3名が本戦大会に出場した。応募総数史上最多の584校からブロック審査会を勝ち抜いた18校と特別招請校1校を加えた19校が熱戦を繰り広げた。本校は中国ブロック代表として、主将の山岡が全国の舞台で選手宣誓の大役を果たした。今回選手達が「考える・共有する・見据える」という3つのプロセスを大切に、最後まで正々堂々シャッターを切り続けることができたこと自体が最大の収穫であった。



第47回全国高等学校総合文化祭 写真部門

時 7月30日
於 かがしま県民交流センター

本校から飯塚真子が参加した。飯塚は北海道での写真甲子園本戦に出場後、北海道から鹿児島まで移動し、総文祭初日から全日程に参加した。鹿児島では写真家の講演会や全国の写真部員との交流を楽しみ、充実した時間を過ごすことができた。これも偏に日頃から支えてくださった方々のお蔭である。心より感謝している。
(顧問 村上 学)



第70回全国高校ワープ競技大会

時 8月3日
於 東京都立産業貿易センター台東館

須谷知史 (34歳) が全国大会個人の部に出場した。前日練習から周囲の高い技術を目の当たりにして緊張感を味わった。当日だったが、集中して競技に向かうこと



ができた。結果、入賞はできなかったが、本人にとって大舞台で競技できたことが大きな経験になったと思う。最後に後輩に向けて誇らしい姿を見ることができた。
(顧問 永瀬貴之)

第57回全国高等学校家庭科食物調理技術検定

時 8月10日
於 本校

(1級合格者) 内田心花 (34歳)
(2級合格者) 中山夏光 (32歳)

第23回いすもアートコンクール



時 8月18日
於 本校美術棟
今回は15校の合計20名の参加申込みがあり、人物を鉛筆で描く内容で行った。入賞者は次の通り。

最優秀賞 小倉昂汰 柿木中 3年
優秀賞 来間由衣 向陽中 3年
審査員特別賞 山本愛花 松山中 3年
葛西真維 横田中 3年
平田中 2年

第21回中学生ワープコンテスト



猛暑の中、10名の参加者を迎え、第21回大会を開催することができた。若者達がタッチ端末に触れて操作する機会が増えたが、仕事を上ではキーボードを使ったタイピング技術はまだ必要不可欠な時代である。このコンテストは、10分間にどれだけ多くの文字数を正確に入力できるかを競うものであるが、一番早い中学生で1,200字を超えた。速く、そして正確に文字を入力し文章を作成すること、将来の進学先や就労先でも活用できる力の一つだと思う。本コンテストが中学生の技術力向上に少しでも役立つと幸いである。
(担当 相場翔太)

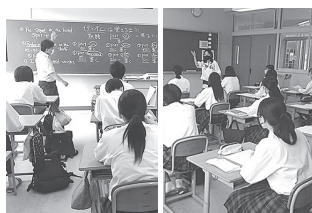
インターアクト地区大会



時 7月29・30日
於 とりぎん文化会館
第46回インターアクト地区大会が鳥取市であり、本校からは高橋愛美(31番)・中山夏光(32番)・和田希美(21番)の3名が参加した。大会テーマは「砂丘とSDGs」未来につながる環境問題」で、鳥取大学乾燥地研究センター長の辻本壽教授の講演や研究センターの見学、「アフリカ大陸での井戸掘り」と題し、(株)タジマボーリングの田島大介氏の講演、またクラブ間交流としての班別会議や体験発表など、環境問題やSDGsについて学習でき、充実した大会であった。

また今大会では、本校生徒が令和3年7月豪雨の災害復旧支援活動について「体験発表」を行った。

特別進学コース校内予備校実施



時 7月25・28日
特別進学コースでは、進学指導の環境として外部講師を招き、「校内予備校」を実施した。生徒達は普段とは違う雰囲気の中、大学受験に直結する授業内容に対し意欲的に取り組んだ。

学校開放美術講座



素描講座の様子
時 7月24日
於 本校美術棟
素描とデザイン
の講座に県内9校の中学校から15名の参加があった。素描は木炭デッサンを、デザインは果物を

を使った平面構成を行った。参加者は初めての素材や技法にもかかわらず、約2時間の実技に積極的に取り組みそれぞれに上達が見える実りある講習となった。次年度も多くのの方に受講していただくと嬉しい。

部活動体験(運動部)



時 7月27日
於 本校
中学3年生を対象に部活動体験を実施した。暑い中での体験ではあったが、男女バスケットボール部、男子ソフトテニス部、テニス部に多くの参加があった。

吹奏楽部



出演 8月15日
於 斐川第一体育館
「庄原夏祭り」
標記イベントに出演させていただいた。多くの地域の方が参加されており、盛り上がった祭りであった。
今後も「地域に愛されるバンド」を目指し変わらぬ精進していきたい。

合唱部

『第30回合唱の集い』出演
時 7月29日
於 大社文化プレイスうらら館
このイベントは、コンクールの前哨戦的な意味合いがあり、各団体共に気合いが入った演奏が繰り広げられた。本校もNHK・全日本の2つのコンクールの課題曲、自由曲の計4曲を演奏した。コン

クール前に4曲をステージで歌えたことには大きな意義があったが、バランスの問題や表現力の乏しさなど、多くの課題も見つかるよい機会となった。

中学校

卓球部

第48回中国中学校卓球選手権大会
時 8月7・8日
於 キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター
(男子団体)
1回戦 本校 0-3 野田学園(山口)
(男子シングルス)
3位 三好蒼空 全国大会出場
○大会総評
団体戦は全国大会への出場を逃す大変悔しい結果となった。個人戦での頑張りを見守りたい。

第57回島根県中学校総合体育大会

時 7月21・22日
於 島根県立体育館
(男子団体) 2位
(男子個人)
3位 三好蒼空(中2)、ベスト8 金丸 陽(中3)、波多間怜偉(中2)
○大会総評
昨年に続き悔しい結果となった。中国大会に向けて課題を克服していきたい。
第19回出雲市オープン卓球選手権大会中学生の部
時 7月17日
於 カミアリーナ
(団体) 優勝(2年ぶり10回目)
(シングルス)
優勝 金丸 陽
2位 三好蒼空
3位 波多間怜偉、松崎優樹(中2)
○大会総評
県総体前に試合ができ、いい刺激となった。夏の大会に向けて一つ一つの大会を大切にしていきたい。
(顧問 相場翔太)

男子バスケットボール部

第57回島根県中学校総合体育大会
時 7月24・26日
於 カミアリーナ

ベスト16
1回戦 本校 65-49 石見
2回戦 本校 61-64 松江一
○大会総評
松江一中戦では粘ったが、あと一ゴール決めきれず競り負けてしまった。ご声援有難うございました。



第7回島根クラブ交歓大会 男子の部

時 8月12日
於 ふれあいジム・かなぎ

優勝
1回戦 本校 72-56 MASUDA BANDITS(益田市)
2回戦 本校 79-30 TAMA YU(松江市)
ブロック決勝 本校 24-15 BUDDIES(益田市)
決勝戦 本校 63-61 INFERNOS(大田市)
○大会総評
新チームで臨む初めての大会であった。3年生相手に走り負けなかったことで自信にも繋がったと思う。新人戦に向けて練習に励みたい。
(顧問 多々納厚比古)

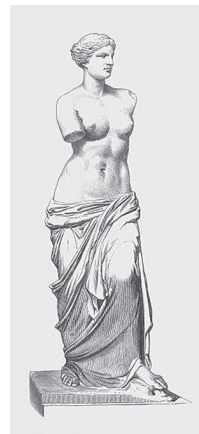


校内教職員研修会

時 8月16日
於 黎明ホール
今年度は各種研修の報告、講師による模擬試験活用方法、出雲市消防本部救急隊員による救命講習、ICT教育研修などを実施した。
教職員一人ひとり、今後の学校教育に役立てたいと積極的に研修に取り組んだ。

作品と研究

評論文『ミロのヴィーナス』(論理国語)の学習振り返りシートから



タイトルから考えたこと

山尾咲良(2・6世)

本文を読んで、ミロのヴィーナスは「無い」ことで「有る」こと以上の可能性を感じさせるものだと思います。そこから、このタイトルの「ミロのヴィーナス」は、ただ単に芸術作品の作品名という意味だけではなく、無を感じさせる可能性や魅力をよく表している言葉という側面も持っているのかなと感じました。作者が、このミロのヴィーナスという言葉にどんな意味を持たせたのか、学習を通して明らかにできるとよいなと思います。

興味を持った点

両腕が失われたことが、特殊から普遍への跳躍であるように思われるという部分に興味を持ちました。何か形におこせるものについて、その実体があることは、大きな時代の流れで見れば、その物が特殊、つまりある時代に特別固有であるものとなることを示している。そして反対に実体がないことは、その物を、その存在しない部分の形を各

時代の人々の想像に任せることによって、普遍にさせているのだろうと思いました。

筆者の主張

「完璧であることが美しいことであり、人を感動させるとは限らない。欠けていること、不完全であることが美しさを生み、足りないからこそ心惹かれ、想像性を含んだ何かになることができる。」ということだと思います。人々がミロのヴィーナスに心惹かれるのは、腕がないことによってそこに自らの思う腕を描くことができるという想像性によったり、あるはずのものが無いことで、何か今の自分にはない可能性をこの像に感じることでできて心が少し自由になれたり、といったことが大きいのではないかと思います。「当たり前がないことで、見失いがちな可能性を発見することができる。そしてその無いものが大きな意味を持つものであったり役に立つものであったりすればするほど、その無から感じる夢は大きくなる。」ということも主張の一つではないかと思っています。

あなたが考える「美しさ」とは？

そこに正解を作ってはいけないものではないかなと思います。美しさの基準というものが無いからこそ、ありのままの感情を自らの思う表現と対応させることができているのかなと思いますし、美しさというどちらかといえばプラスの響きを持つものに基準がないことで、より多くのものをプラスのものとして捉えることができていると思います。正解や、ある程度のラインな

どがないことで、感じ方に自由が生まれます。また様々な美しさを表現する異なる感性に触れることで、新しい気づきや学びを得たり、慰められたりすることもあると思います。

タイトルから考えたこと

三島千央(2・6世)

「ミロのヴィーナス」というものがよく目にする美術作品であると、写真を見て初めて気が付きました。しかしこの筆者のようにこの「ミロのヴィーナス」が持つ魅力の根源とは何なのかなどと考えたことはなく、改めてタイトルを見つめると筆者の語る「ミロのヴィーナス」の魅惑のオーラや、「美」というもののすべてが複雑に絡まりあっているような印象を受けました。

興味を持った点

筆者の並外れた推理力、想像力、「美」への愛情が文章の中に織り込まれており、「美」の根底にたどり着くべく、様々な思考が何万ものパズルのように構成されているのがとてもおもしろいなと感じました。また、ミロのヴィーナスを一人の女性として捉え、その一人称を「彼女」とし、凛として、美しさをまとったものと表していることに筆者の「美」への敬意を感じると共に、ものとして捉えるのではなく、人として捉えることで「美」を身近なものとしており、その新鮮さに面白さを感じました。

筆者の主張

筆者はミロのヴィーナスの失った両

腕とそこから生み出される「魅惑」「美しさ」を語っています。つまり本文の最後にあるように「欠落」とそれが見出す創造性、多様性について語っています。この評論から、筆者は、「ない」ということが決して0ではなく、いくつもの可能性を持つていて、それは「ある」ものには味わえないものであるというメッセージを示しているように感じました。「ない」からこそ、いくつもの方法でアプローチすることが可能になる。それは今の私達にとつてのエールのように感じられました。人と違うものがあつたとしてもそれを欠落ととらえるのではなく、可能性を広げるための自分だけが持つチャンスだととらえることは今の自分に大切なことです。このように筆者は欠落から生じる可能性について主張していると考えました。

令和5年度春季写真コンクール特選作品
今月の1枚
「fly high!」

朝枝 佳乃(2・6世)

